平成29年度の教育活動等に対する学校評価書

平成30年3月6日

学校法人大石寺学園上野幼稚園長　吉野　友勝

学校法人大石寺学園上野幼稚園学校関係者評価委員長　清　信昭

１　幼稚園の教育目標

上野幼稚園は、教育基本法の精神に則り、学校教育法に従い、幼児を保育し、適当な環境を与えて宗教情操の涵養と健全な心身の発達を助長することを目的とする。

本園ではめざす幼児像として

「健やかな体と豊かな心を育てる」ことを目指し、具体的に次の5項目を掲げる

１．丈夫な体を持つ子どもに

２．感謝の心、思いやりのあるやさしい心を持つ子どもに

３．豊かな自己表現ができる、創造性を持つ子どもに

４．頑張る心、辛抱強い心を持つ子どもに

５．よく聞き、よく見、よく考えることができる子どもに

２　本年度の重点目標（学校評価の具体的な目標や計画）

評価項目に沿って自己点検、自己評価を実施することによって、教師自らが客観的に自園を見る目を養い、教育内容の改善に主体的に取り組んでいくことを重点項目とする。

３　**自己評価結果とそれに対する**学校関係者評価結果

（※評価点は、Ａ（十分に成果があった）・Ｂ（成果があった）・Ｃ（少し成果があった）、Ｄ（成果がなかった）の段階で表すこと。）

評価項目	自己評価		学校関係者評価委員会	
	評価点	幼稚園としての反省と改善策	評価点	意見
・教育計画は、子どもの実態を的確につかみ、幼児の発達に即した指導が工夫され、具体的な手立てが講じられている。	B	・子どもの関心と連動する遊びや活動の計画・発達段階と実態を踏まえた指導を心掛けている。 ・年間計画の基本は同じでも実態に応じて活動内容は変える。 ・療育の先生の指導で、気になる子への対応・保育計画に細かな配慮ができるようになった。	A	先生方の一人ひとりの園児に対するきめ細かい指導をみてうかがえる。
・園がめざす幼児の姿を具体的にイメージできる。	B	教育指針を基に、目指す姿・行事活動につながりがあり、イメージしやすい。	A	行事の準備・本番と常にイメージをしている様子がうかがえる。（園児の成長と頑張る姿から。） 特に「感謝の心、思いやりのある優しい心を持つ子どもに」が感じとれる。
・子どもの良さを認めて評価しようとしている。	A	できない事より、少しでもできたことや、頑張る姿を大切にしている。 家庭との連携が必要な事柄は評価が難しい。 良さを認める事はできているが、より良い評価には、先生同士の話し合いが必要。	A	どの先生方もクラスの園児にとどまらずに、声掛けをしてくれている。 園長をはじめとして教諭・役職員が皆で話し合い進めていることが伝わる。

・遊びを通して工夫したり、協力したりする姿が見られる。また、遊びを通しての総合的な指導ができている。	B	朝の遊び時間の有効利用で継続性が生まれた。 友だち同士の単純な遊びは広がりや発展が見られるがルールのある集団遊びには声掛け・環境作りが大切。	B	園児の楽しそうな姿からみることができた。 長時間にわたる保育時間を保つための工夫は無限で大変ですが頑張って下さい。
・規則正しい生活習慣の定着に向けての指導を行う。	B	日々の繰り返しを大事にしている。 家庭の協力がないと定着は容易でない。 家庭が主になるべきことも園に任せる親が多い。 個人差が大きい年齢なので指導には配慮が必要。	A	朝の活動や昼食など毎日の活動で継続的に指導していることがみてうかがえる。 「よく聞き、よく見、よく考えることができる子どもに」の通り、園教育は充実していた。家庭との連携が不可欠である一方、連携方法などの工夫を。
・全職員が年に 1 回以上公開保育を参観し、研修する。	A	自分の保育を見直す絶好の機会。 諸先生の保育方法・技術を知り、自分のものに生かすことができる。	A	公開保育では準備も含めてきめ細かさが伝わります。 子ども達の歩幅に合わせている感がとれる。 客観的な視点が涵養されるので是非続けて下さい。
・各研修会や研究会に積極的に参加して職員に資料提供をする。	A	園内で学べない事を学べる。 参加後のそれぞれの報告会が役に立つ。 療育支援センター(こあら)での研修がとても役に立った。	A	休みの間も研修されていて感心いたします。
・一人一人の幼児をよく観察するように心がけている。	A	常に心がけている。気になる子がいると偏りが出てしまう。	A	声掛けが行き届いている。

・教員間の協力的な指導ができている。	A	様々な形で協力体制が働いている。 上司にも全てが伝わり、相談も自然な形で行われている。	A	全体の雰囲気から教員の仲の良さが見られます。 授業・行事等を通じて園長自ら率先垂範している姿、また職員間で情報の共有がなされて順調にすすむ教育計画にあらわれている。
・保護者の実情や要望による預かり保育ができている。	A	無理のない充実したものになっている。	A	共働き家庭においても助かっていると思われます。 適正な人数で今後も続けて下さい。
・月のよていや学年だよりの発行など、情報を発信している。 ・情報発信手段として、ホームページを活用するなど、広く周知するための工夫をしている。	B	様々な情報がパソコンや温もりのある手書き等で細かに発信されている。 ホームページの更新がもう少し回数多くできればよいが写真使用を承諾しない保護者も増えつつあり、難しい現状である。	B	ホームページに関しては、忙しい最中での更新が難しいものと思います。それでも園だより・園長だより等で情報発信は充実していると思う。 大変ですがもう少しホームページの更新があるとよい。
・季節の行事や遠足、保育参観の実施状況は、より活発な取り組みになっているか。	B	季節を感じられるよい経験が出来る行事になった。 子ども達も積極的で楽しみながら行動している。 今年の行事は雨に悩まされることが多かったが、よい判断だったと思う。違う状況は、普段では感じられない心境を経験し、協力の大切さを改めて感じることができた。	A	今年度は天候によって決断が難しかったと思う。 それでも園児を優先した決断だったと思います。 行事を通して季節を感じます。将来につながる基礎的な価値観形成期です。今後も変わらぬ努力をお願いしたい。